

1 調査研究方針

1.1 調査研究目的

令和6年8月8日に「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が初めて発表された際に、大阪湾沿岸や瀬戸内海東部海域の各港の港長や港湾管理者が講じた措置及び港内在泊船舶等の対応状況を検証するとともに課題を抽出し、今後発生が危惧される南海トラフ地震による海難防止に寄与することを目的とした。

1.2 調査研究に至る背景等

平成29年11月1日に「南海トラフ地震に関する情報（臨時）」の運用が開始され、その後令和元年5月31日に「南海トラフ地震臨時情報」に改編されて運用されているところ、令和6年8月8日に「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」（以下単に臨時情報と記載）が初めて発表された。

当該臨時情報の発表に伴い、港長からは予め定められた措置（注意喚起）が講じられたものの、当該注意喚起に接した船舶運航事業者や船舶の対応は様々であった。

内閣府（防災担当）では、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）発表を受けての防災対応に関する検証と改善方策」を取りまとめ、臨時情報発表時にとるべき防災対応をわかりやすく解説する等情報発信を強化することとしている。

このような状況を踏まえ、臨時情報が発表された際の港長や港湾管理者が講じた措置及び港内在泊船舶等の対応状況を検証するとともに、船舶運航事業者や船舶運航実務者の意見を聴取して課題を抽出し、留意点について調査研究することとした。

1.3 調査研究名

「南海トラフ地震臨時情報発表時における対応状況の検証と課題に関する調査研究」とした。

1.4 調査対象海域

本調査研究における対象海域を図1.4.1に示す。

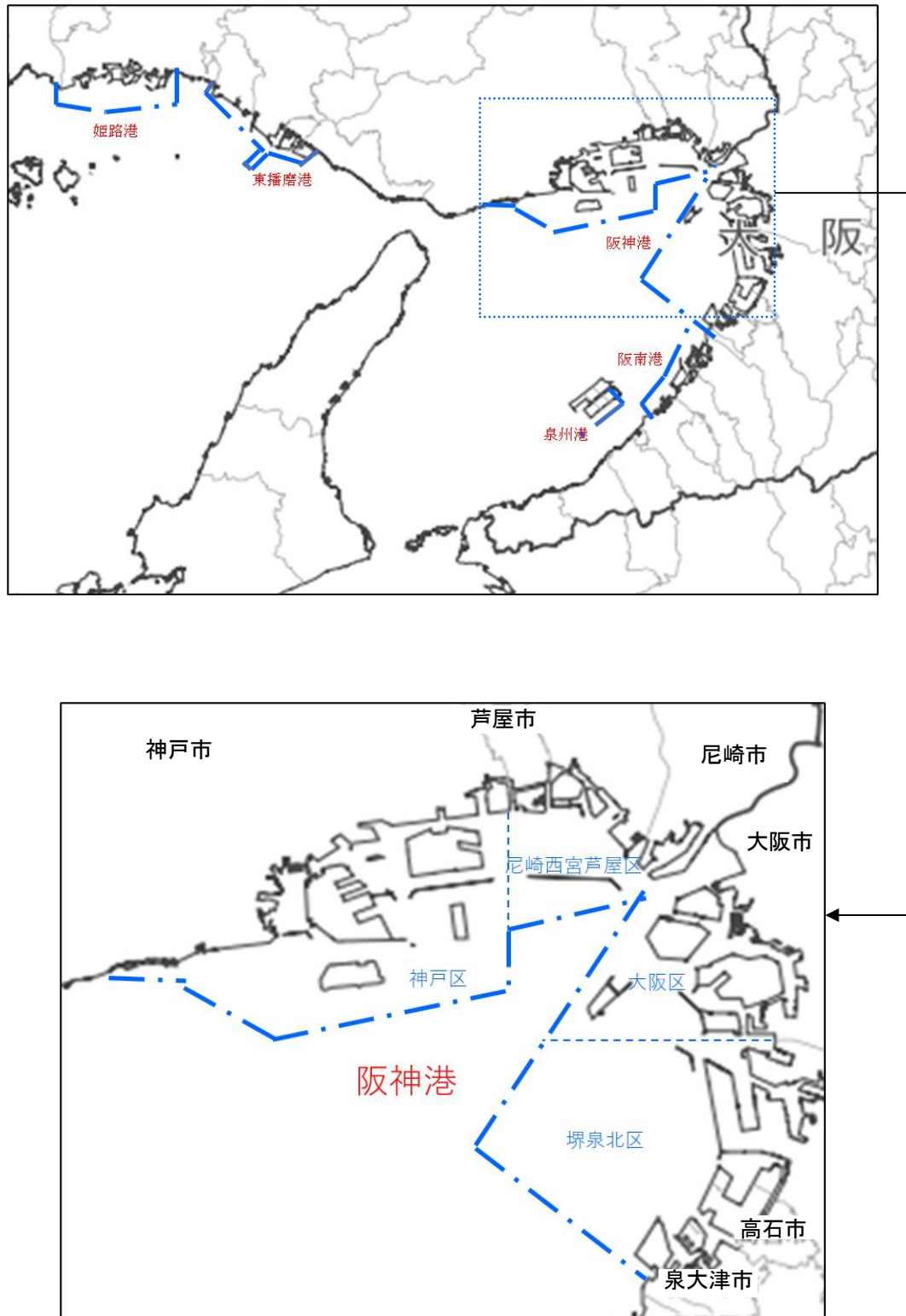


図 1.4.1 対象海域図

1.5 調査研究項目

1.5.1 基礎調査

- (1) 自然環境及び航行環境
- (2) 南海トラフ地震臨時情報及びその対応状況

1.5.2 現況把握

- (1) 対象港における AIS データによる船舶交通実態の把握
- (2) アンケート調査及び分析

1.5.3 課題の抽出と留意点の検討

- (1) AIS データ解析結果の整理
- (2) アンケート調査結果の分析
- (3) 課題の抽出
- (4) 留意点の整理

1.6 調査研究の方法

1.6.1 委員会の設置

学識経験者、海事实務者及び関係官公庁職員等からなる「南海トラフ地震臨時情報発表時における対応状況の検証と課題に関する調査研究委員会」を設置した。

1.6.2 検討スケジュール

- (1) 第1回委員会
 - ① 調査研究方針について
 - ② 南海トラフ地震臨時情報及び対応状況について
 - ③ AIS データによる船舶動静の解析実施方案について
 - ④ アンケート調査実施方案について
- (2) 第2回委員会
 - ① AIS データによる船舶動静の解析結果について
 - ② アンケート調査分析結果について
 - ③ 課題の抽出について
- (3) 第3回委員会
 - ① 留意点について
 - ② 報告書の構成について

1.7 調査研究の流れ

調査研究フローを図 1.7.1 に示す。

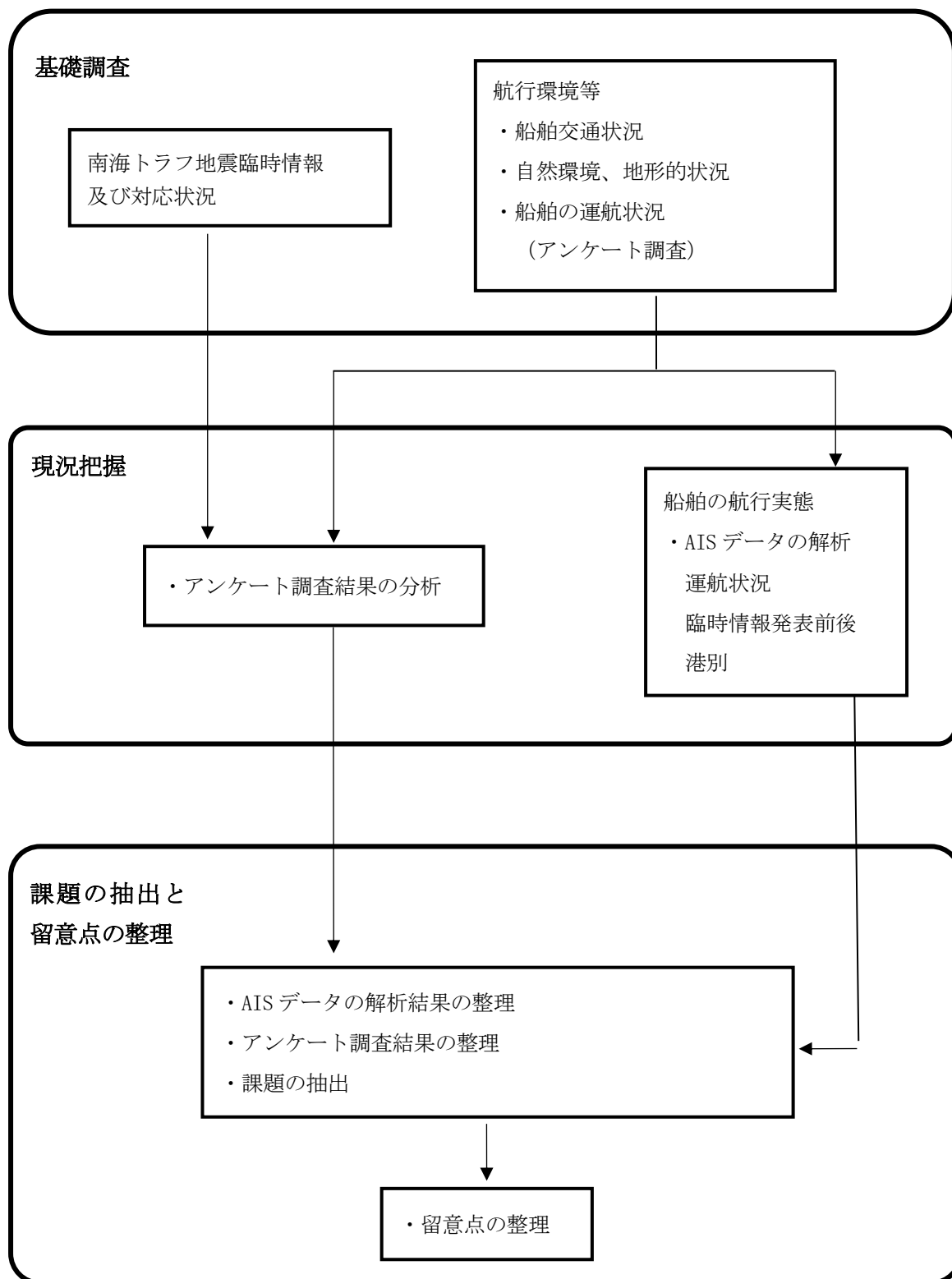


図 1.7.1 調査検討フロー

1.8 委員会等の開催状況

1.8.1 第1回委員会

- 1 日 時 令和7年9月25日（木）14：00～15：40
- 2 場 所 神戸ポートオアシス 5階 502～503号会議室
- 3 議 題
 - (1) 調査研究方針について
 - (2) 南海トラフ地震臨時情報及び対応状況について
 - (3) AISデータによる船舶動静情報の解析実施方案について
 - (4) アンケート調査実施方案について

1.8.2 第2回委員会

- 1 日 時 令和7年12月22日（月）13：30～15：10
- 2 場 所 三宮コンベンションセンター 5階 503～504号会議室
- 3 議 題
 - (1) AISデータによる船舶動静の解析結果について
 - (2) アンケート調査分析結果について
 - (3) 課題の抽出について

1.8.3 第3回委員会

- 1 日 時 令和8年2月13日（金）13：30～14：30
- 2 場 所 三宮コンベンションセンター 5階 502～503号会議室
- 3 議 題
 - (1) 留意点について
 - (2) 報告書の構成について